

第4回みえの学力向上県民運動推進会議を開催しました

第4回みえの学力向上県民運動推進会議を開催し、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた今後の取組及び子どもの読書活動の推進について協議しました。

協議では、子どもたちの学習内容の確実な理解と定着につなげるための取組や、子どもたちが本を身近なものと感じ、読書を始めるきっかけをつくるための取組について、それぞれの専門的な知見から意見が出されました。

1 日時 平成30年10月8日（月）10時00分から11時30分まで

2 場所 JA三重ビル本館5階 大会議室

3 内容

(1) 知事挨拶

(2) 協議

<論点1>

- ・子どもたちの学習内容の確実な理解と定着につなげるために、今後の取組について、工夫すべき点は何か。また、さらにどのような取組が必要か。

<協議での主な意見>

- 県の指導資料が市町や学校でどのような活用され、子どもたちの学習内容の理解や定着につながっているかを確認していくことが大切である。
- 授業の質の向上が最も大切であり、指導後の学習内容の理解度を確認し、課題を次の指導につなげられるようにする。定着していない場合は、個に応じた学びの場や指導方法の工夫が必要である。
- 読解力が重要であり、低学年の段階から基礎的な指導を重ねていかないと読み解く力はつかない。
- 高校生の基礎的な読解力にも課題があり、小中高の校種間の連携が必要である。到達目標を共有し、社会に出てから伸びる子どもを育てる必要がある。
- 三重県の経年的な課題である割合の問題については、問題文を読んだ時、解の見当をイメージできる力を身につけさせることが重要であり、そのためには、指導力のある教員の教え方を広げていくことが大切である。
- 割合の問題については、感覚として理解している子がどれだけいるのだろうか。割合は日常的に必要性を持たせて触れさせるなどの工

夫によって、理解につなげることができる。

- 自尊心やあきらめないことは非常に大事な要素である。つまずきやわからないことが学びの原動力になることを意識させ、そこから逃げない子どもの集団をつくることが重要である。
- 意欲、あきらめない気持ちは最も大切な力だと思う。あきらめずに方法を考えるのは、大人の社会でも、重要なことであり、三重県はその意欲が高いのは素晴らしい。
- 地域の事情は様々で各市町、各学校に応じた学習の場の工夫が必要になってくることから、コミュニティ・スクールの推進が大切である。
- 学校、家庭、地域、行政が当事者意識を持ち、地域ぐるみで子どもを育てていくことが大切である。そのためにコミュニティ・スクールという制度化したものがある。
- 貧困を始めとする教育格差があり、子どもたちの学習の環境を整えていく必要がある。

< 論点 2 >

- ・子どもたちが本を身近なものと感じ、読書を始めるきっかけをつくるためには、どのような取組が必要か。

< 協議での主な意見 >

- 興味のあることは図書館で探すということを、大人や先生が率先して行うことが大切である。本は良いから読みなさいと言われても子どもは理解できない。本に触れることが大切であり、子どもを本にいざなう工夫が必要である。

(3) 三重県教育委員会教育長挨拶